

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

むすこ

一ばんかわいい息子が、  
どれいに



ぶん

文: Edward Hughes

え

絵: Byron Unger; Lazarus

かいさくしゃ

改作者: M. Kerr; Sarah S.

ほんやくしゃ

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ

出版社: Bible for Children

[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

BFC

PO Box 3

Winnipeg, MB R3C 2G1

Canada

©2009 Bible for Children, Inc.

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。



イサクは、ほんとうにしあわせでした。なぜって、<sup>むすこ</sup>息子ヤコブが<sup>いえ</sup>家にいるの  
ですから。それに、いちどは、<sup>おとうと</sup>弟ヤコブを<sup>ころ</sup>殺そうとしたエサウでさえも、  
<sup>おお</sup>大よろこびでヤコブを<sup>むか</sup>迎えてくれたんですからね。けれども、  
<sup>むすこ</sup>ヤコブの息子たちは、しあわせじゃなかったのです。  
<sup>おとうと</sup>それは、かれらの<sup>どう</sup>弟ヨセフが、お父さんのいちば  
<sup>こ</sup>んかわいい子だったからです。



ある<sup>とき</sup>時ヨセフは、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>はなし</sup>ゆめの話をしました。

それを<sup>き</sup>聞いた<sup>にい</sup>兄さんたちは、かんかんにおこりましたよ。そのゆめというのは、  
こうでした。「<sup>わたし</sup>私の<sup>たば</sup>こくもつ<sup>たか</sup>の<sup>た</sup>束は、<sup>にい</sup>高く<sup>たば</sup>立ち、<sup>にい</sup>兄さんたちの<sup>たば</sup>束が、  
おじぎをしたんだよ。」このゆめは、ヨセフが、<sup>にい</sup>兄さんたちよりも、  
もっとえらくなるということを、  
<sup>い</sup>言っていました。





に ど め

ヨセフの二度目のゆめは、

たいよう つき ほし

太陽と月と星が、

ヨセフにおじぎしたという  
ものでした。このゆめには、

とう

お父さんヤコブもおこって  
しまいました。ヨセフは、

じぶん とう

自分をお父さんや、

かあ にい

お母さんや兄さんたちよりも、

もの

えらい者ということになり  
ますから。



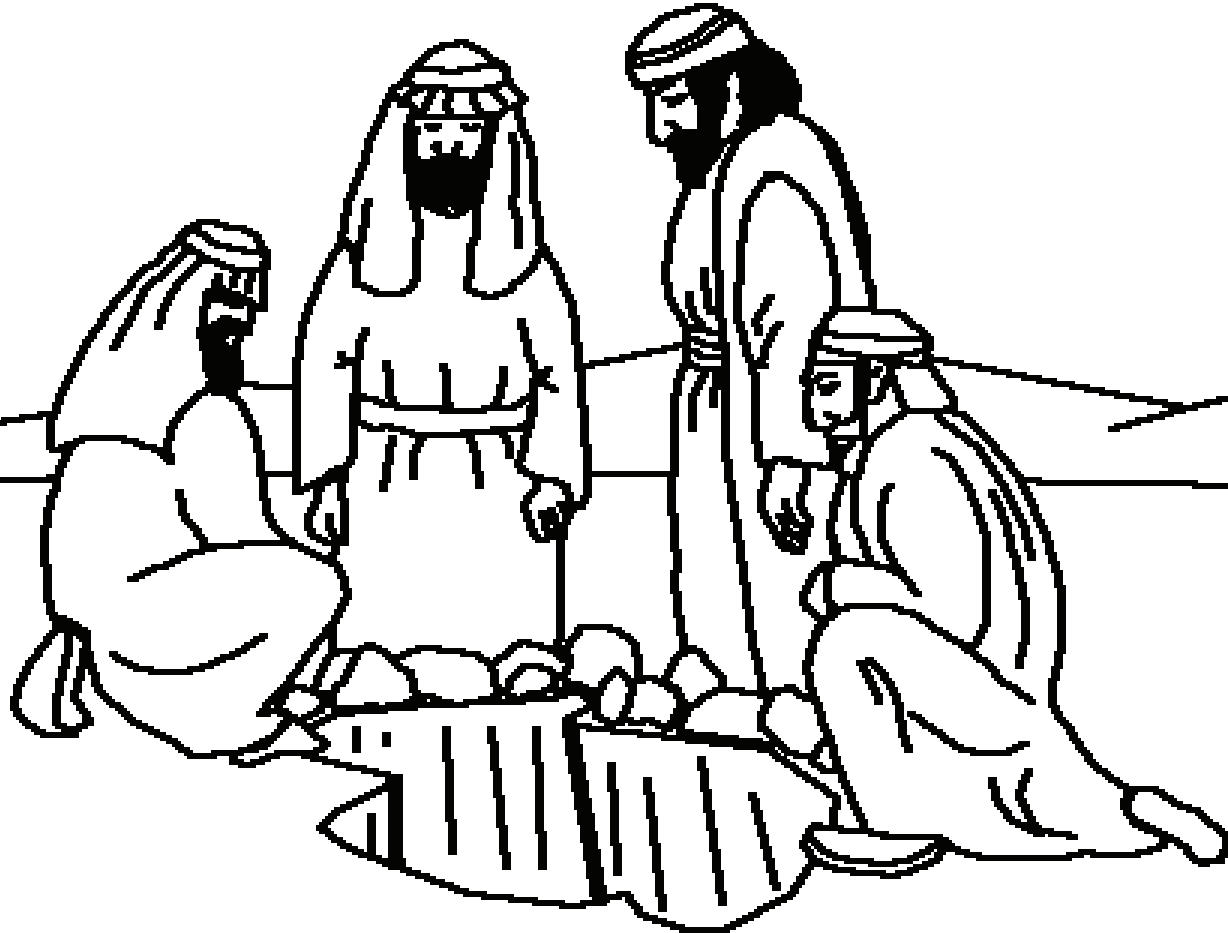
ある日、ヤコブは、ヨセフをとおくにある広い牧草地へ行かせました。そこでは、兄さんたちが、ヒツジやヤギの群れの番をしていました。兄さんたちは、ヨセフがこちらの方へやってくるのが見えましたよ。「おい、みんな見ろよ。ヨセフがこちらへ向かってくるじゃないか。あのゆめ見るやつを、やっつけてしまおう。」

「そうだ、そうしよう！」ヨセフは、

あぶないことがまっているなんて、思いもしませんでした。



いち うえ にい はんたい い  
一ばん上の兄さん、ルベンは反対して言いました。「みんな、それはよくない  
よ。決して血をながしてはいけないよ。」そして、「そうだ、見ろよ。ここに穴  
がある。この中に、ヨセフを投げ入れてしまおうじゃないか。」と言いました。  
ルベンは、夜になったら、そっとわからないようにヨセフを助け出そうと思  
いました。



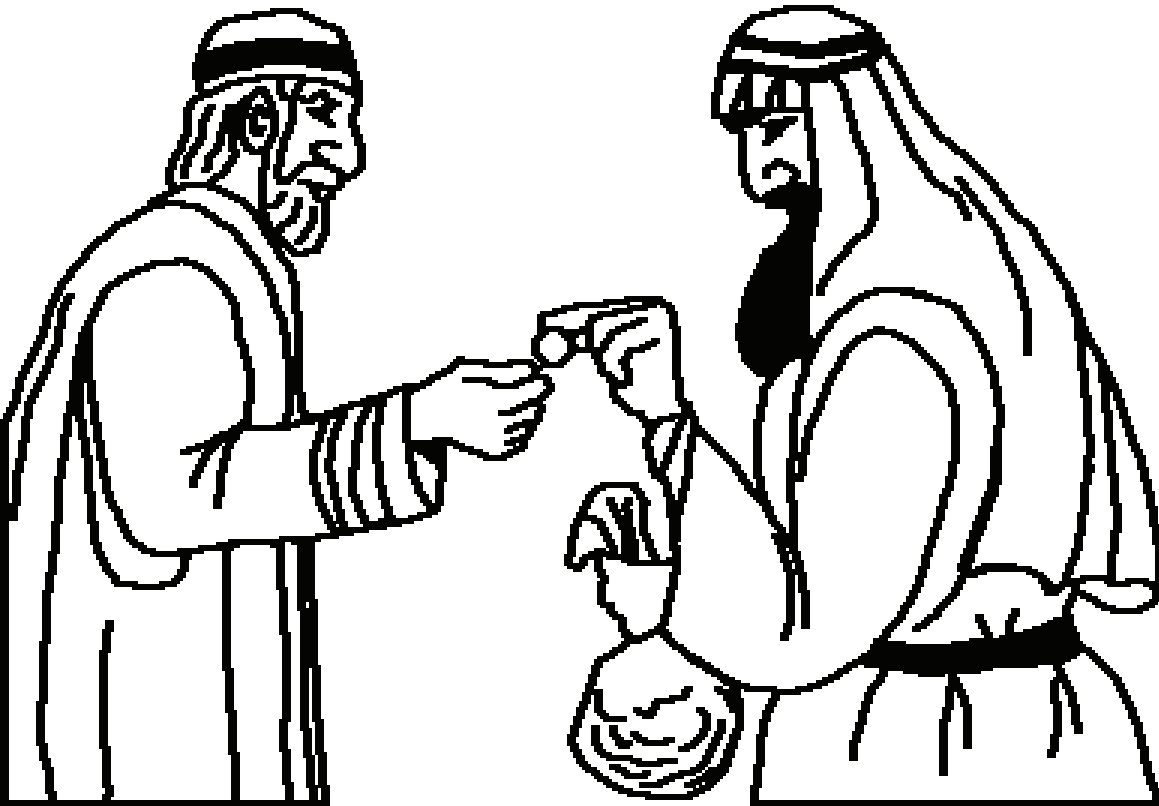
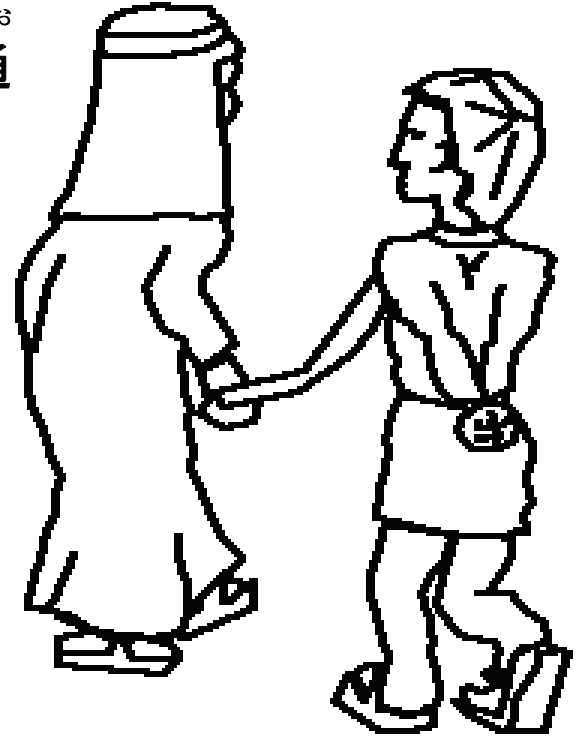
いよいよ、ヨセフが、  
やってきましたよ。

にい  
兄さんたちは、  
ヨセフにおそいばかり、  
かれのきれいなふく服をはぎと  
ってしまいました。それは、  
ちち父ヤコブがかわいいむすこ息子ヨセ  
つフのために、作つくったとくべ  
ふくつの服でした。それから、  
にい  
兄さんたちは、  
ヨセフをおそろしくふかい  
あな なか な穴の中に投なげこんでし  
まったのです。





ルベンが、<sup>あな</sup>穴のところから、しばらくはなれていた  
ときのことです。ラクダをつれたキャラバン<sup>たい とお</sup>隊が通  
りかかりました。かれらは、エジプトへ<sup>い</sup>行くと  
ちゅうです。「そうだ、ヨセフを<sup>ひと</sup>あの<sup>う</sup>人<sup>にい</sup>たち<sup>ひとり</sup>  
に<sup>う</sup>売<sup>に</sup>てしまおう。」<sup>い</sup>兄<sup>ひと</sup>さんの一人、  
ユダがさげびました。



そして、キャラバン<sup>たい</sup>隊の  
人<sup>はな</sup>たちと<sup>あ</sup>話し合いました。  
とうとうヨセフを、  
<sup>ぎんか</sup>銀貨20まいで、<sup>う</sup>売<sup>に</sup>  
てしまいました。

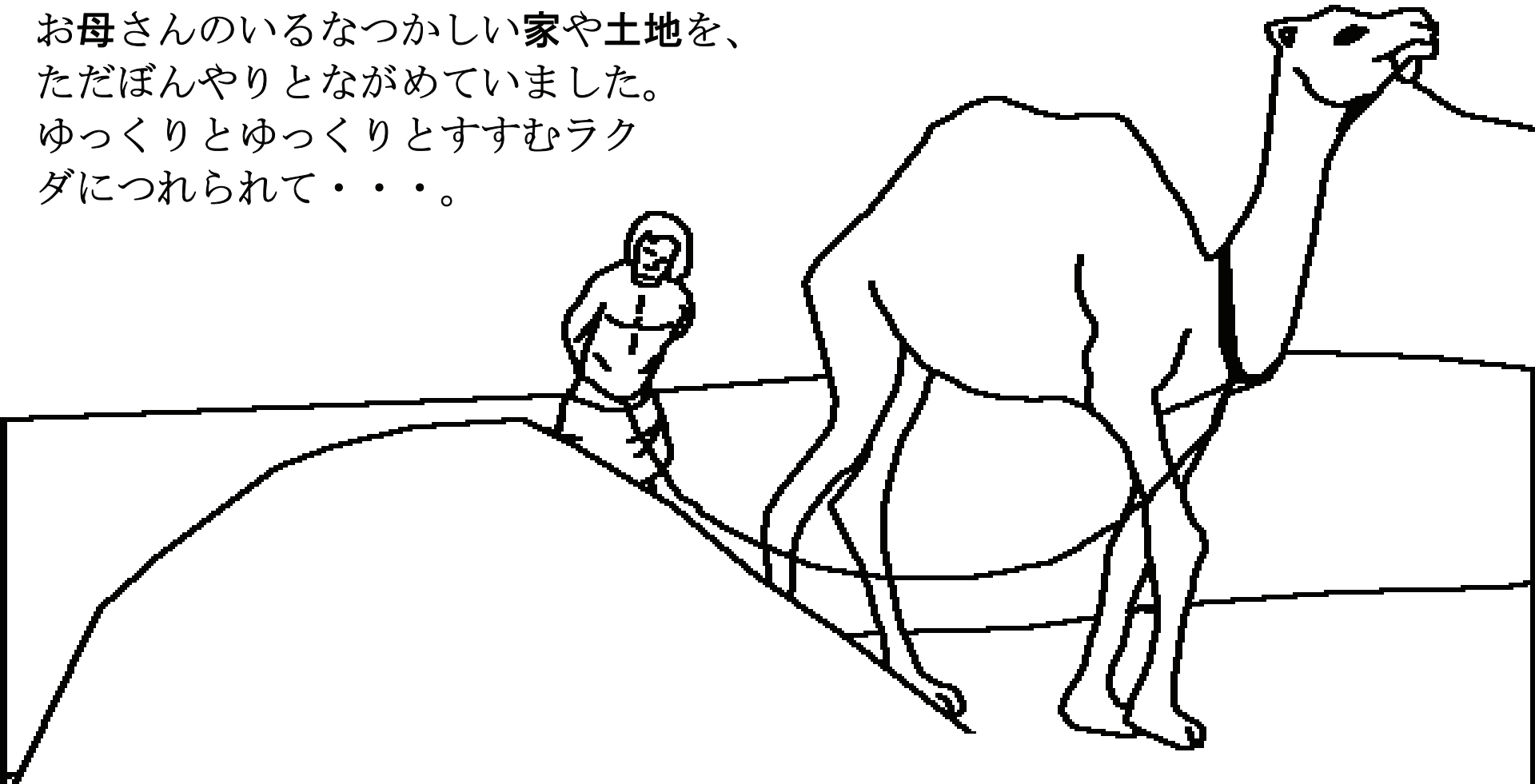


ヨセフは、おそろしくてもう目にはなみだがいっぱいです。

だんだん遠くはなれていくお父さん、

お母さんのいるなつかしい家や土地を、  
ただぼんやりとながめていました。

ゆっくりとゆっくりとすすむラク  
ダにつれられて・・・。





とう  
「お父さん、これはヨセフの  
うわぎ ち  
上着でしょうか。血がついて  
いるのですけれど……。私  
うわぎ の  
たちは、この上着をあら野で  
にい  
みつけたのです。」ひどい兄  
とう  
さんたちは、お父さんのヤコ  
むすこ  
ブに、かわいい息子ヨセフ  
が、けものにころされてし  
しん  
まったと信じさせました。  
ヤコブは、あまりのかなしさ  
ふく な  
で、服をひきさき泣きつづけ  
ました。だれもヤコブを  
なぐさめることは、  
できませんでした。





ひとり

エジプトで、一人ぼっちにな  
ってしまったヨセフは、

ふあん

きっと不安でおそろしかったにち  
がいありません。たぶんヨセフ

いえ

は、みんなのいる家に、もどりた  
かったでしょう。でもかれは、  
にげだすことができなかったので

くに やくにん

す。かれは、この国の役人であつ

じん

いえ

たエジプト人ポティファルの家で  
どれいとなり、はたらきました。

ポティファルは、ヨセフがいつも  
いっしょうけんめいはたらいてい

み

あんしん

るのを見て、安心してなんでもま

おも

かせられると思いました。



「ヨセフ、おまえのすることは、  
なんでもみんなうまくいくんだね。」

<sup>ひ</sup>  
ポティファルは、ある日、

<sup>い</sup>ヨセフにこう言いました。「<sup>かみ</sup>神さまが、  
おまえについておられるようだ。さあ、

<sup>しょうにん</sup> <sup>いち</sup>  
これからは、おまえを**使用**人の一ばんえらい

<sup>もの</sup> <sup>わたし</sup>  
**者**としよう。**私**のしごとのすべてをまかせ、

<sup>しょうにん</sup> <sup>しゅじん</sup>  
ほかの**使用**人みんなの**主人**としよう。」



かみ

神さまは、ポティファノに、畑はたけでたくさんさくもつの作物さくもつができるように、

そしてまた、たいへんゆた豊かにゆたくらせるようにしていただきました。

ヨセフのおかげですね。いまや、

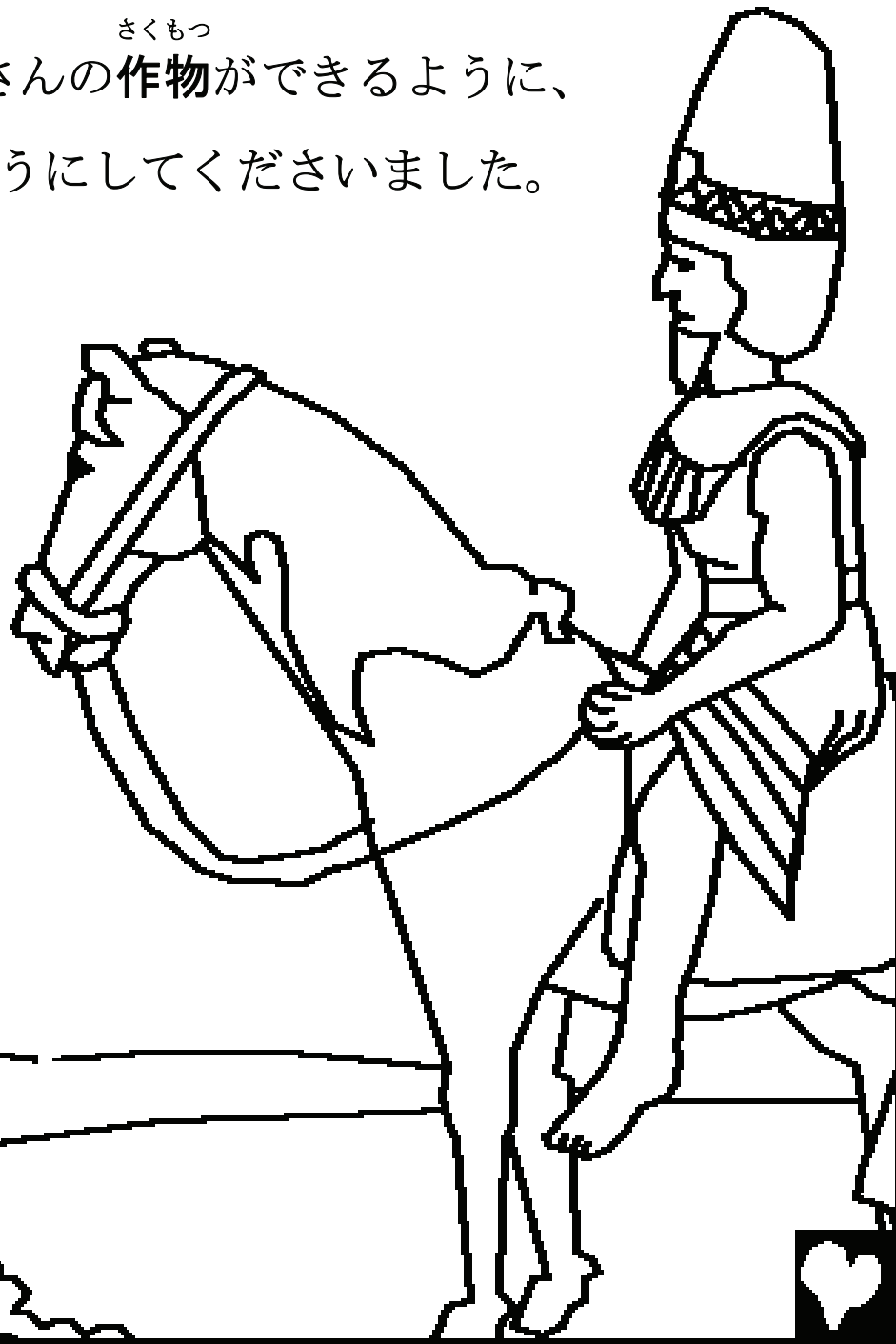
この国くにでとても大切たいせつな人ひとと

なったヨセフですけれど、

いつもか変わらずかみ神さましんを信しんらいし、

仕つかえていました。ところがね、

ヨセフに、たいへんこま困こまったこ  
とがおこりましたよ。



ひと

ポティファルのおくさんは、よい人ではありませんでした。かのじよは、

じぶん おっと

ヨセフに**自分の夫**ポティファルのかわりをするように**言**いました。もちろん、

ヨセフはことわりました。ヨセフは、

ポティファルによくないことをして、

かみ

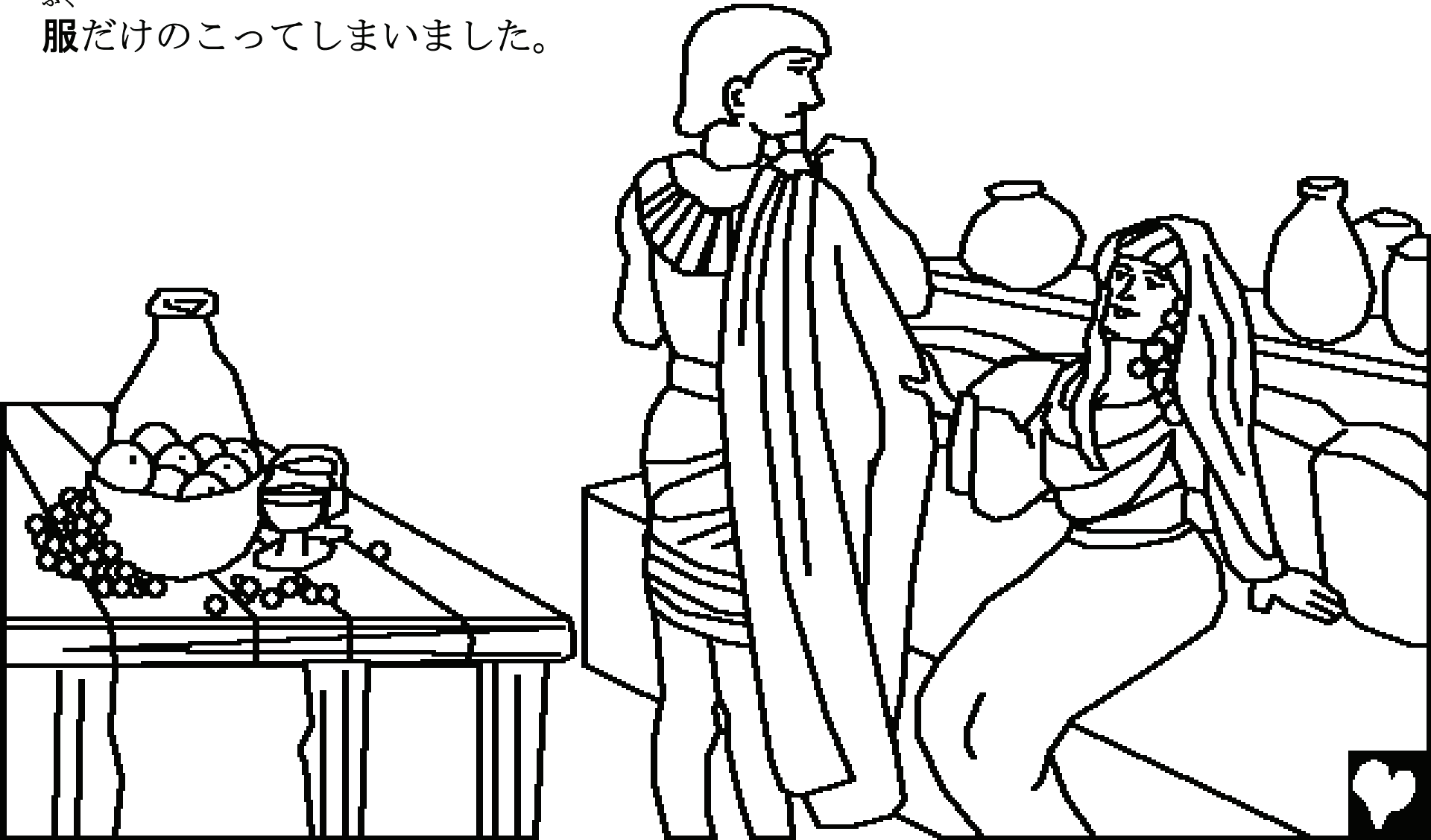
つみ

神さまに**罪**をおかすつもり

はありませんでした。



あるとき、おくさんはヨセフにむりやり<sup>い</sup>言<sup>い</sup>いよってきました。かれは、  
<sup>そと</sup>外へうまくにげましたよ。ところが、おくさんは、ヨセフの<sup>ふく</sup>服を、  
しっかりつかんでいたので、  
<sup>ふく</sup>服だけのこってしまいました。





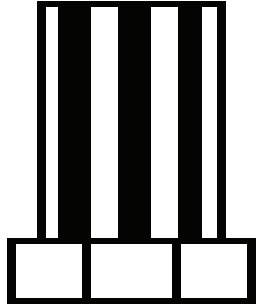
わたし

「あなたのどれいは、私にいたずらしようとしたのです。」ポティファルのおくさんは、このようにヨセフのことをいいました。「さあ、<sup>み</sup>見てくださいよ。ここにヨセフの<sup>ふく</sup>服があるから。」それを<sup>み</sup>見て、ポティファルは、たいそうおこりました。

でも、もしかしたらかれは、<sup>じぶん</sup>自分のおくさんが、うそをついているって<sup>し</sup>知っていたか  
もしれませんね。けれども、  
とにかくポティファルは、  
なにかしなければなりません  
でした。いったいか  
れは、どうするつも  
りなのでしょうね。



ポティファルは、ヨセフをろうやに**ほう**りこんだのでした。



ヨセフは、なんの**つみ**もなかったのにどうして？ でもかれは、そのことで、つらく**おも**ったりおこったりはしませんでした。

たぶんヨセフは、今までの**くる**苦しかったできごとから、いろいろ**まな**学んできたからなのでしょうね。つまりね、たとえどこにいたとしても、いつも**かみ**神さまを**だいいち**第一にしていれば、**かみ**神さまは、かならず**なか**まもってくださるだろうって。たとえ、ろうやの中でもね。



むすこ  
一ばんかわいい息子が、どれいに

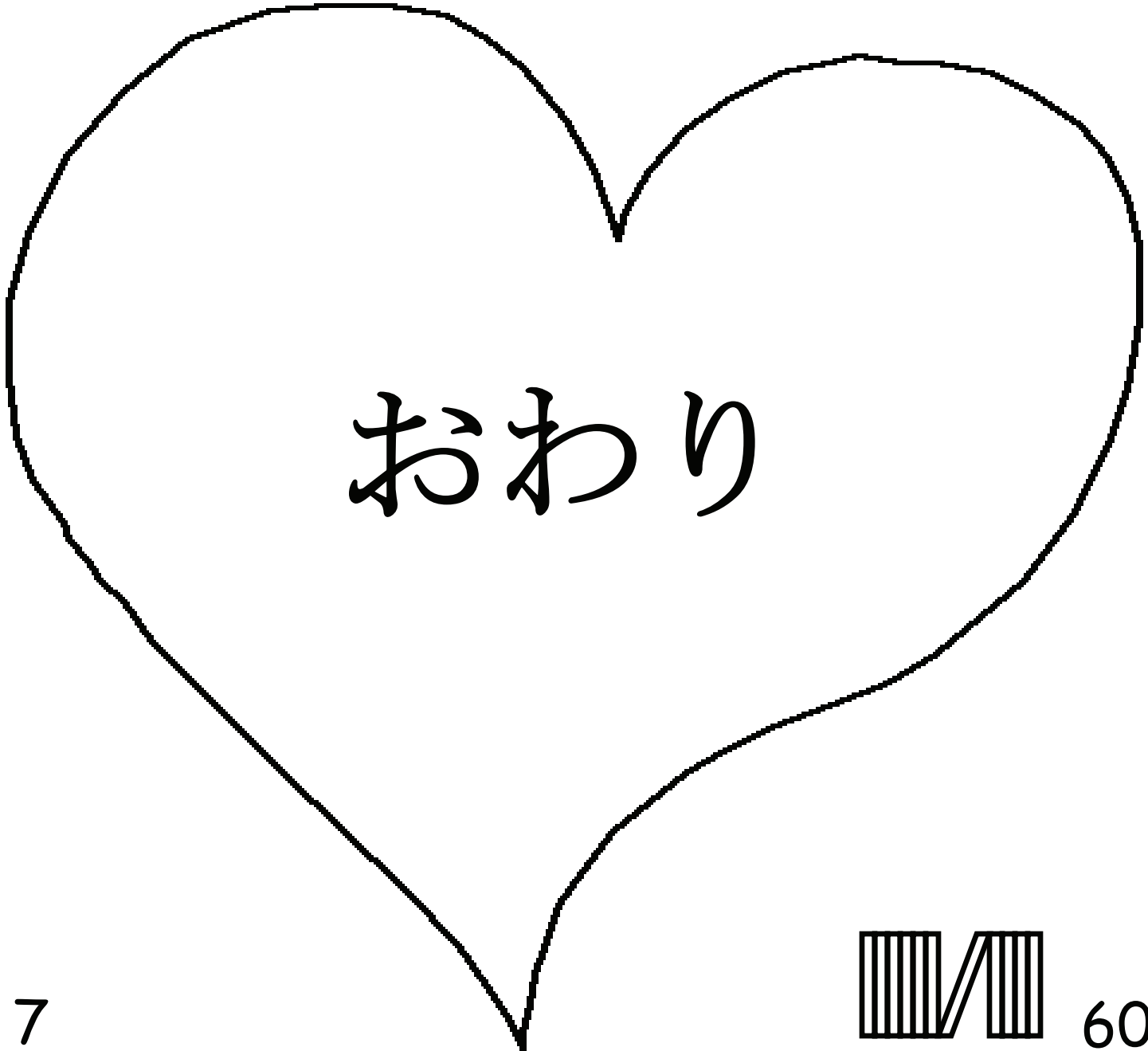
かみ み せいしょ しる  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

そうせいき しょう しょう  
創世記 37 章—39 章

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130

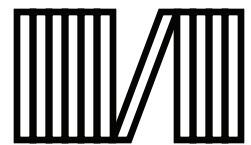




おわり



7



60



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま  
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死しです。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをとも愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ  
よ おく つみ じゅうじかじょう な  
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架じゅうじかじょう上で亡なくなられたのです。けれども  
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ  
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま  
いま ところ き なか す  
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところところの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ  
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってくださいます。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ  
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて  
いらっしゃいます。どうか、私のところところの中中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた  
らしい命いのちをいただけます。そして、いつか、あなたの所ところへ行き、いつまでもあなたといっしょにいる  
ことこができるののです。あなたにしたがえますよう、あなたの子ことして生きることができますよう、たす  
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

